

平成 26 年度 第 2 回 SD 研修会

日 時	平成 26 年 6 月 6 日 (金) 16 : 00 ~ 17 : 00
場 所	宮崎国際大学 2 号棟 107 教室
講 師	心理カウンセラー 日高義治先生
出 席 者	9 名
研 修 内 容	
<p>平成 21 年度より本学の学校カウンセラーとして学生の面談や相談をしていただいている日高カウンセラーより、「問題行動の理解と対応」という事で提言をいただいた。</p> <p>1 年生の面談も終盤に入っているが、全体の印象としては、国際教養学部の学生は解放的で型にはまっていない人が多い、教育学部は挨拶、礼、言葉遣いや姿勢などきちんとしていて、既に学校の先生の素質を備えている人が多く見られる。</p> <p>「問題行動の理解と対応」</p> <p>問題を感じる学生たちの問題行動の類型パターンとして、(1) 基本的欲求が満たされない学生、(2) 欲求不満耐性が弱い、(3) 対人関係に悩む学生、(4) 規範意識の低い学生、(5) 障害に苦しむ学生、(6) 病気に苦しむ学生 の 6 つに分けて資料 (添付) とともに学生の事例を交えながら説明があった。</p> <p>問題を感じる学生たちの中でも多くは、(1) 基本的欲求が満たされない学生 に該当する者が多いという事であった。その背景にある 5 段階の基本的欲求 (A.H.マズロー) について、そしてその基本的欲求 (認められたい、愛されたい等) が阻止された場合に、うまく防衛機制 (買い物、おしゃべり、お酒などのガス抜き) がなされないと非社会的行動 (不登校、ひきこもり等) 又は、気の強い人だと反社会的行動 (ガラスを割る等) に出ることがあるとの解説があった。</p> <p>対応についてだが、どの段階でも「傾聴」が重要である。傾聴とは Active Listening で、相手が話していることに沿って話をする事である。例えば、「私は昨日うどんを食べたよ。」「俺はラーメン食べた。」や、「今日は天気がいいね。」「雨が降ってないからね。」というのは、傾聴ではない。相手が話したがっているので、「私は昨日うどんを食べたよ。」「何うどんを食べた？」のように引き出すような話し方を心がける。難しいようであれば、「今日は天気がいいね。」「うん、天気がいいね。」のようにおうむ返しでもよい。</p>	